

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【文部科学省】

施策番号	24019	施策名		数学・数理科学と他分野の連携拠点形成支援プログラム			
新規／継続	新規	領域	共通基盤	国際的位置付け	—	AP施策	
競争的資金		e-Rad		社会還元			
施策の目的及び概要	数学・数理科学は、科学における普遍的な言語であり、社会や諸科学に内在する数理的構造を見出すことにより、社会や諸科学の根本的構造の改善を図り、経済・社会の効率化・スマート化等をはじめとする諸課題の解決に貢献することが可能となる。このため、数学・数理科学者と産業界・諸科学研究者とが、課題解決のために集い、議論を行い、連携を図るための「場」が必要であることから、連携拠点の形成を目指す大学、研究機関等におけるワークショップの開催を支援することにより、「場」を形成し、両者の協働作業による研究テーマの設定から研究の実施につなげていくよう推進する。						
達成目標及び達成期限	平成32年度までに、数学・数理科学と他分野の連携拠点となる基盤が全国の大学に構築され、社会の諸課題の解決に貢献することを目標とする。						
研究開発目標及び達成期限	・平成27年度までに、数学・数理科学と他分野の連携拠点形成を目指した機関によるワークショップへの数学・数理科学の参加者数を大幅に増加させる。 ・平成32年度までに、数学・数理科学と諸科学分野、産業界との連携が継続的に図られるよう、ネットワークを拡大し、連携研究の活性化を図る。						
23年度の研究開発目標	本施策により、平成23年度は、数学・数理科学と他分野の連携拠点の形成を目指す機関に対してワークショップの開催を支援し、社会の諸課題に潜む数理的構造を見出す研究テーマの設定から研究の実施につなげていくよう推進する。						
施策の重要性	数学・数理科学は、科学における普遍的な言語であり、社会の情報ネットワーク化やシミュレーション化の進展、コンピュータ・グラフィックスの高度化やバイオインフォマティクスの新興など、数学・数理科学への依存度や、地球規模課題の根本原因の探索・解明に向けた数学・数理的発想によるアプローチの必要性が高まっている。そのため、社会や諸科学に内在する数理的構造を見出すことにより、根本的構造の改善を図り、経済・社会の効率化・スマート化等をはじめとする諸課題の解決に貢献することが可能となる。 このような状況を踏まえ、近年、欧米のみならずアジア諸国でも、数学・数理科学の重要性が認識され、数学・数理科学の研究機関の設立が行われている。特に、米国では、長期に渡って国として数学・数理科学の振興を図っている。 我が国においても、近年、数学・数理科学と産業界・諸科学との連携研究により、これまでにない発想による研究成果が出始めている中、このような気運の高まりを本事業の実施により促進させることで、数学・数理科学と産業界・諸科学との間の橋渡しを行い、連携を図るための「場」の形成が求められている。						
実施体制	実施主体はこれまでの実績等を考慮し選定する。諸課題の根本的構造の改善を図るため、数学・数理科学、産業界及び諸科学分野の研究者の参加によるワークショップを開催し、課題の本質をとらえた研究テーマについて議論を行う。研究開発は実施しないため、これらの研究テーマをもとに、既存の競争的資金制度等との連携を密に行い、研究の実施につなげていく。						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
—				10			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)							
H23概算要求額の内訳	1拠点あたりの金額: 約0.6 採択予定課題数: 15程度 その他事務経費: 約0.8						
期間	H23～H32			資金投入規模(億円)		1	

これまでの 成果 (継続の み)			
社会情勢・ 技術の変 化(継続の み)			
昨年度優 先度判定 (継続の み)		優先度判定時の指摘 への対応(継続のみ)	
国民との科学・技術対 話推進への対応(対象 施策のみ)			